

提言第13号 胃瘻造設・カテーテル交換に係る死亡事例の分析

事例6

< 事例概要 >

（胃瘻造設）

・ 70 歳代、進行性食道癌の治療目的に当該医療機関へ転院した患者。BMI 16.2 kg/m²。血清アルブミン値4.1 g/dL。

・ 経口摂取が困難となり、治療に向けた栄養状態改善のため、当該医療機関で胃瘻造設を決定。術前にCT検査を実施。

・ 開腹胃瘻造設術で、小腸カテーテルを使用し、幽門前庭部小彎に造設。胃瘻固定部が引っ張られていないことを確認。

・ 手術直後から創痛、嘔気持続。術後 1 日目に内服薬を注入開始。術後 2 日目に腹膜刺激症状が強くなり、CT検査で胃壁が腹壁から脱落し、遊離ガスを認めた。緊急手術で刺入部の開大（約 2 cm）あり、腹腔内洗浄を行うが、術後 22 日目に死亡。

・ 死因は、汎発性腹膜炎。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。